

樹木のならたけ病

-生物学的種の識別-

「ならたけ病」は、キノコの仲間であるナラタケ属の菌が、若いヒノキやアカマツ、カラマツなど様々な樹木の根に感染し枯死させる病気です。ところが、ナラタケ属には多くの種類があり、種類によって菌の性質（キノコの形、病原性など）が異なると考えられています。つまり、ナラタケ属のすべての菌が、樹木を枯らす強力な力を持っているとは限らないようです。したがって、ナラタケ属の菌を見つけたら、どの種類のものか識別することが必要です。

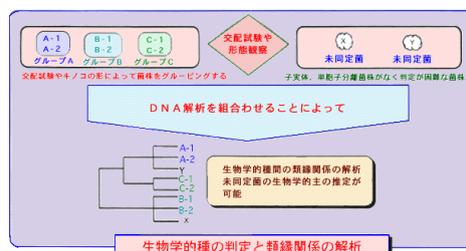
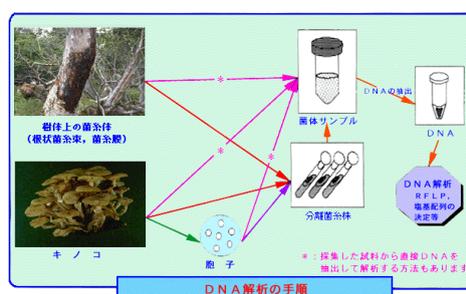


ナラタケ属のいろいろな種類のキノコ

ナラタケの種類分け

- ・ナラタケ属のキノコ（子実体）には形態がよく似ているものがあり、形態学的分類によって種を識別するには熟練が必要です。
- ・形態によらないグループ分けとしては、交配試験を用いる方法があり、これによって分けられたグループを生物学的種とします。交配には「単胞子分離菌株」を用いますが、交配能力の劣化が早いので、常に新鮮な菌株が必要です。

DNA解析なら菌株の劣化にかかわらず菌のグループ分けができます。あらかじめ各生物学的種のDNA解析を行い、そのデータを蓄積しておいて、未特定菌株の解析結果と比較すればよいのです。



従来の方にDNA解析を組み合わせることで、ナラタケ病菌をより正確に、また効率的に識別できるようになります。現在、生物学的種間での病原性の違いを明らかにするため、接種試験による病原性や宿主特異性の検定を進めています。

<p>企画・製作 森林生物部</p>	<p>お問い合わせは 森林総合研究所企画調整部情報科へ 〒305 茨城県稲敷郡笠崎町松の里1 TEL 0298-73-3211 FAX 0298-74-3720</p>
--------------------	--